施策No.8　観光・交流の振興

施策の目的

対象	意図
①市内外住民 ②観光や交流に係わる事業者や農家	①伊佐の良さを知り、繰り返し来てもらう ②収益性のある観光体制が整う

現状

平成21年度に本市を訪れた観光客数653,508人のうち、日帰り客数は623,245人、宿泊客数は30,263人で、平成20年度と比較すると、観光客数は25,107人増加していますが、近年、ほぼ横ばいの傾向にあります。

日帰り客数は、曽木の滝公園やパークゴルフ場等を訪れた人が520,545人、もみじ祭りなどイベントに訪れた人が102,700人で、前年度と比較して21,713人増加しています。この主な理由は、平成20年度に中止となった忠元公園桜まつり、ひしかりドラゴンカップ、ひしかり花火大会が開催されたことによるものです。

宿泊客数のうち約87%が市内のホテルや旅館の宿泊者、残りの約13%は市内２箇所のキャンプ場宿泊者で、前年度と比較して3,394人増加しています。この主な理由は、県民体育大会の選手役員と映画「半次郎」の撮影スタッフの宿泊等によりホテル旅館への宿泊者が増加したことと、設備を更新した楠本キャンプ場の利用者が増加したことによるものです。

本市を訪れる観光客は、日帰り型の観光客が95.4%、宿泊型の観光客が4.6%であり、四季を通じて開催されるイベントへの来場者は多いものの、宿泊に結び付いていません。また、市内のホテルや旅館など宿泊施設の収容可能な人数は、一日当たり500人程度となっています。

近隣市町と比較して観光客が少ない状況にありますが、その理由としては、観光資源はあるもののPRが十分できていないことや、観光資源が地理的・時期的に点在していること、交通手段が確保されていないことなどが考えられます。また、来訪した観光客の感想や意見の集約についても不十分であり、来訪者からは観光資源のPRが足りないとの意見もあることから、地域の観光資源を最大限に活用されているとはいえない状況です。

現在、市では、カヌー競技の合宿や修学旅行生の受入れに向けた取組みを進めているところですが、今後ニーズが増えると予想されるツーリズム[16]や、九州新幹線の全線開通等に対する対応も急がれます。

今後の状況変化

・平成22年秋から本市をロケ地とした映画「半次郎」が上映されたことや、平成23年春に九州新幹線が全線開通し、新水俣駅への新幹線停車が増加することから、本市への観光客の増加が期待されます。
・市内宿泊施設の老朽化が進んでおり、今後、耐震性等の安全面について整備が必要になると予想されます。
・観光客の志向が、団体旅行から小グループ化、個人旅行へ移行しており、また、観光形態については、ツーリズムのニーズがより高まることが予想されます。

課題

・観光資源の掘り起しや有効活用を図る必要があります。
・近隣市と連携して、観光客の誘致に取り組む必要があります。
・九州新幹線の全線開通に合わせて、観光客を呼び込む取組みを進める必要があります。
・自然や文化、人、物など地域資源を活用したツーリズム（スポーツ合宿や農業体験など）のための整備を進める必要があります。
・UIターンや市外から移住した市民、来訪者、観光客の感想や意見を活用し、ニーズにあった観光メニューを企画する必要があります。

～施策の方針～

豊かな自然を活かした観光資源の開発と整備を引き続き行うとともに、近隣自治体との連携を強化しつつ、九州新幹線全線開通に対応した観光体制の整備を行い、積極的なPR活動を展開していきます。また、風土・文化やさまざまな地域資源を活用したツーリズムについて、民間と行政の協働により推進します。

目的の達成度をあらわす指標とその目標値

成果指標	平成21年度現状値	平成27年度目標値 （　）は成り行き値
A　観光客数（宿泊＋日帰り）	653,508人	683,000人 （650,000人）
B　ツーリズム観光客数	0人	120人 （40人）

目標設定の考え方

A：観光客数（宿泊+日帰り）は、過去3年間の実績をみると差異が生じていますが、イベントなどの開催状況等から、今後は概ね平成21年度実績程度で推移することが予想され、平成27年度における成り行き値は、65万人を見込みます。目標値は、曽木の滝の施設オープンなどによる集客増加を3万3千人程度見込み、68万3千人をめざします。

B：ツーリズム観光客数は、現在、市で受入れ体制の整備を進めており、20戸程度の受入れが見込まれることから、1戸当たり2人受入れを行うと想定し、平成27年度における成り行き値は40人を見込みます。目標値は、成り行き値の3倍である120人をめざします。

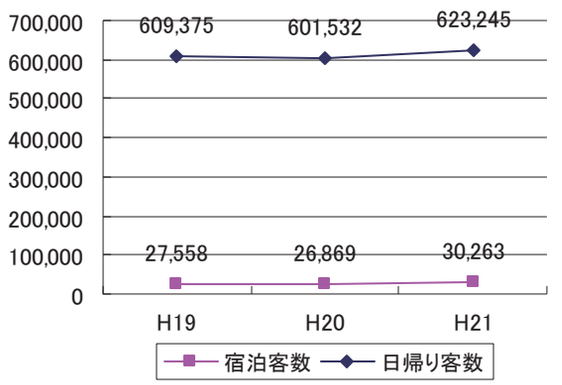
目標達成に向けた基本的な取組

- 新たな観光資源の掘り起こしを行います。
- 曽木の滝などの既存観光資源の整備や観光案内板の設置を進めます。
- 地域の観光資源を有効活用するための観光計画を策定し、霧島市・人吉市など近隣の観光地も含めた市内外の観光資源を相互に連携させ、観光宿泊客の増加を図ります。
- UIターンや市外から移住した市民、来訪した観光客の感想や意見を把握・分析し、観光戦略に活用します。
- 観光特産協会や関係団体が主体的に行うイベント開催に対する支援を行います。
- 観光掲示板の設置や、インターネットやパンフレット等の活用による効果的な情報提供、ふるさと大使によるPR活動など、積極的な宣伝活動を展開していきます。
- 九州新幹線が全面開通になることから、新水俣駅からの観光客を呼び込むための広告や交通手段の確保に関係機関や関係団体と連携して取り組みます。
- 本市の地域資源を活かした農業体験やスポーツ合宿など魅力あるツーリズムメニューを企画し、受入体制の整備を行います。

協働による市民と行政の役割分担

市民（住民、事業所、地域、団体等）の役割	行政の役割
○市民は、自ら地域を知り、来訪者に温かく接し、地域の良さをアピールします。 ○観光業者は、集客力を高めるための個々の営業努力を行い、来訪者のニーズを的確に捉え、来訪者が再度訪れたいと思えるようなサービスを提供します。 ○観光特産協会は、自ら事業企画や情報発信を行うなど、主体的に観光事業に取り組みます。また、市内の飲食店・宿泊事業者の資質向上を図ります。	○観光資源の掘り起こしや観光施設の整備を行います。 ○市民や事業所、関係団体等と連携して、観光PRを行い、観光客の誘致を図ります。また、特産品等の宣伝販売を支援します。 ○宿泊、滞在、ツーリズムに向けた取組みを支援します。 ○観光イベント開催に対する支援を行います。

観光客数（宿泊・日帰り）



資料：伊佐市地域振興課

ドラゴンカップ

忠元公園　千本桜

曽木の滝公園　紅葉

[16] ツーリズム：風土や文化、様々な地域資源を活用した個々のニーズを満たす体験・交流型観光のこと。